

月曜昼の部 2017年5月8日

参加者23人(内ろう者4人)

テーマ「読み取ってみよう」

教材 : 第3回全国高校生手話パフォーマンス甲子園 佳子内親王殿下おことば



注意

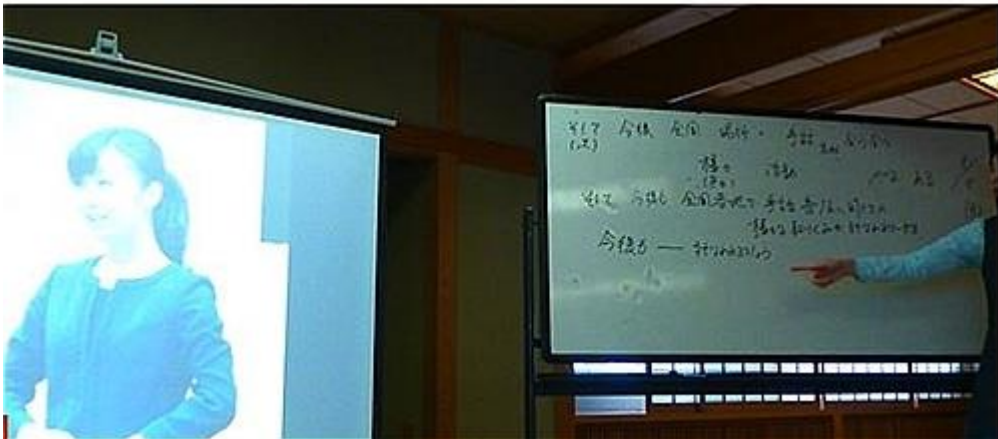
手話には方言がある。本に載っている手話単語だけにとらわれない
では、どれを覚えるの？ → 全部覚える
若者、高齢者では表現の違いがある
→ その人に合わせた手話単語を出す

間違ってもろう者を相手に「あなたの表現は違う」などと言わない！

→ 情報提供(新しい手話単語を教える)と否定は違う

片言しか話せない外国人に「アナタニホンゴオカシイ」といわれるようなもの

学習の手順



1. 佳子さまのお言葉を、字幕なし、声無しのビデオで最後まで見る

2. 短く(一文)切ったものを、もう一度見る

3. 一人ずつわかる手話単語を言ってもらう。手話がわからないときは手の動きや口元を見て読み取る

4. 手話単語をホワイトボードに書き出す

5. もう一度一文のビデオをスロー再生で見て単語を確認する

6. 手話単語を順番に並べる

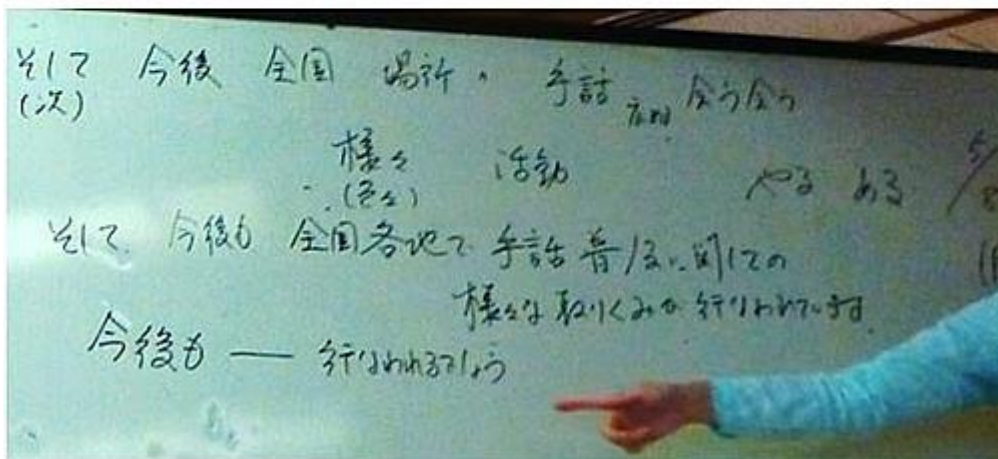
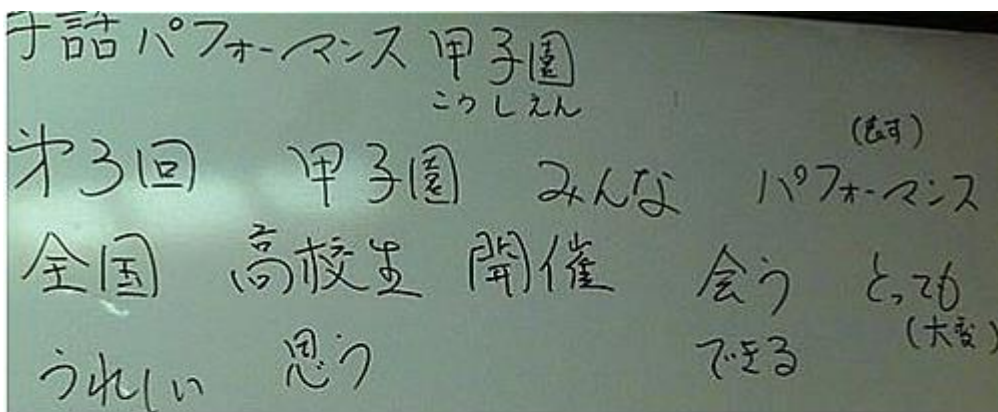
7. ラベルを読む

8. 一文のビデオを再生し、手話に合わせてラベル読みをする

9. 日本語に変える

10. ビデオを再生し、正しい日本語で読む

11. この作業を繰り返し、最後に全文を一気に正しい日本語で読む



注:手話と日本語(ここでいうのは音声語)は、同じ日本の言葉でありながら、全然違う。手話の単語に、日本語の言葉の意味をつける。これをラベル貼りという。

適当なものを見つけられなかったり、一つの単語に多くの日本語ラベルがあったり

する。

また、全く日本語がつけられない手話表現もある。また、同じがの表現の中に、その時々状況・場面によって変わってくるものもある。

詳細は、[→ここをクリック\(タップ\)](#)